

文化・コミュニティ活動の充実を目指し

ふるさと会館の建設に着手

二十一世紀に向け、市民の文化・コミュニティ活動の拠点となる「ふるさと会館」の起工式が、去る六月二十日、都倉市長はじめ関係者多数が出席して行われました。「ふるさと会館」は、社会教育活

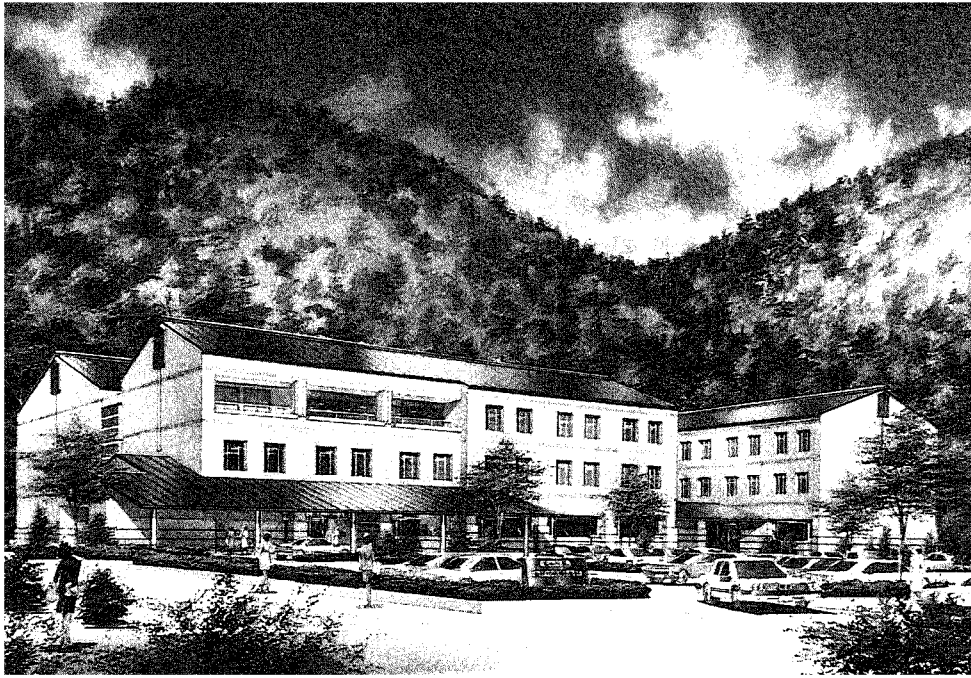
動や各種団体の研修等の場として多目的に使用することが出来る総合施設です。規模は、鉄筋コンクリート造三階建、床面積一六〇八平方メートルで、現在建設中の「県立地域婦人会館」の隣に建

設されます。

「ふるさと会館」建設に当たっては、各界各層の市民で構成された「ふるさと会館建設構想検討委員会」で多角的に検討され、提出された報告書を基に設計がなされました。

一階は地場産品企画展示室、地場産品常設展示室で地場産品の展示や新製品の企画開発など地場産業の振興育成に役立ちます。また、姉妹都市ヘンダーソンビル市のコーナーを設け特産品を展示するなど市民の国際化意識の高揚に一役買うことになっていきます。二階の美術品企画展示室には都留市名誉市民の故増田誠画伯の作品や都留市の美術品・土器などを展示したり、美術展を開催するなど美術館・資料館として使用されます。三階の会議室・研修室は、生涯学習や各種団体・サークルの研修の場として利用される予定です。

本年十二月に完成する県立地域婦人会館と合わせ、来年四月には、文化・コミュニティ活動の拠点として市民の皆さまにご利用いただけます。また、文化ホールにつきまして

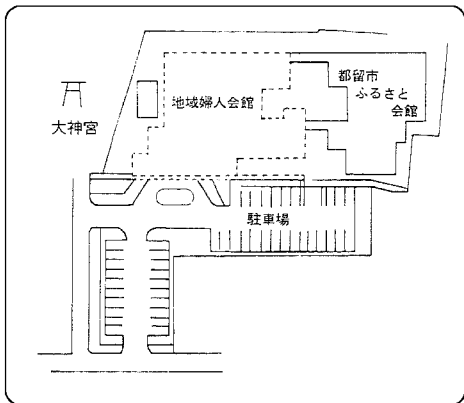


ふるさと会館完成予想図 写真右 (写真左は県立地域婦人会館)



都倉市長によるクワ入れ

配置図▶



も、建設のための基金積み立てを行い、収容人員一〇〇〇人程度の規模で、市民・学生の文化の殿堂として、近い将来建設が予定されています。

各階平面図▼

